

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 1

主要事業名	幼児教育の充実	担	部 名	教育委員会
		当	課 名	教育指導課 鹿嶋っ子育て課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	1	学び高め合い、生きる力を育む学校教育の推進
体系項目	(1)	幼児教育の充実
個別施策	①	子育て支援事業の実施 他

### 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	3歳からの就園により、幼児期の発達の特性に配慮した指導、孤立しやすい子育てのサポート、特別な教育的支援が必要な子どもへの早期対応など、一人ひとりの教育的ニーズに対応するため、公立私立幼稚園と連携した就学前教育の充実を図るとともに、公立幼稚園全園での子育て支援事業を展開する。
---------------	---

### 3 実績

<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立を含む全20園の保育者と小学校の教師の協力を得て、アプローチスタートカリキュラムに活動例を追加した。これにより、幼児教育施設から小学校への円滑な接続について協議することで、公立私立幼稚園・保育園と小学校での意思統一を図ることができた。</li> <li>・3年保育の充実に向けて、園や関係機関との連携を図ることができた。未就園児ふれあい事業は、子ども同士の交流や保護者の子育ての不安解消の一助となり、その結果、参加した園に入園する園児も多かった。</li> </ul>
--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	幼児教育施設から小学校への円滑な接続について、全職員が共通理解をもち対応できるようにしていく必要がある。また、園児がより良い環境で幼児教育を受けられるよう施設の老朽化の問題や職員体制の整備について検討が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小接続コーディネーターが校内でリーダーシップを図ることができるよう研修会を開催する。また、今年度もアプローチスタートカリキュラム検討委員会を開催し、保育者と小学校教員が情報を共有する場を設定する。</li> <li>・幼稚園・保育園の再編成を踏まえた施設の整備について、関係機関と早急に協議を行う。未就園児ふれあい事業の参加者が増えるよう、積極的にPRを行い、公立幼稚園の魅力を発信していく。</li> </ul>

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 2

主要事業名	食育の推進と学校給食の運営	担	部 名	教育委員会
		当	課 名	学校給食センター 鹿嶋っ子育て課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	1	学び高め合い、生きる力を育む学校教育の推進
体系項目	(3)	健やかな体の育成
個別施策	①	食育の実施と学校給食における地産地消の更なる取り組み

### 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受益者負担による、安全安心なおいしい地元の食材を使った給食の提供を行う。</li> <li>・食育の推進については、学校教諭、保護者、子供たちと協力体制を図りながら、一体となって実施する。</li> </ul>
---------------	---

### 3 実績

<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭による訪問指導で延べ101Hの授業を実施し、給食の時間を使って各担任の先生や給食主任の先生により食育の推進を図った。</li> <li>・鹿嶋産しらすを使った給食を年3回実施し、マスコミを通じて地元食材による給食の提供と保護者や市民に地産地消のPRを図った。</li> <li>・納入していない保護者から理解し協力を頂き、児童手当からの充当や臨戸訪問を行い、過年度分361万円の納入となった。</li> </ul>
---

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消の推進は、給食では多量の食材を使用するので、米以外の地元食材（取扱品目）が少ない。</li> <li>・年々増加する滞納額に歯止めをかけるべく、債権管理対策本部会議での議論を深め、新たな対策を講じる必要がある。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産物の提供による児童生徒の地元理解を深めるために、農林水産課と連携し地産地消を更に推進する。</li> <li>・債権管理対策本部会議での他課の対応方法など参考に打開策を調査・研究するとともに、債権に関する講習会等に参加し、専門的知識の向上に努める。</li> </ul>

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 3

主要事業名	生きる力の育成を通じた学力向上のための授業改善	担当	部 名	教育委員会
			課 名	教育指導課

### 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
基本方針	1	学び高め合い、生きる力を育む学校教育の推進
体系項目	(4)	確かな学力の保証
個別施策	①	鹿嶋市授業改善プロジェクトによる授業の推進
	④	学力調査の結果分析と活用

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の発見及び解決に向けた、主体的・対話的で深い学びの充実を図る。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びを充実するためのカリキュラム・マネジメントを、各校の実態及び特色に応じて作成し、校内の共通理解を図る。</li> </ul>
---------------	--

### 3 実績

	<p>授業改善プロジェクトを中核とした研修の推進を通して、児童・生徒が主体的かつ協働的に学習に取り組むことができています。授業改善7つの視点をしっかりと押さえた上で、研修を進めているので、教員一人ひとりの指導力の向上につながっていると云える。</p>
--	---

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	児童生徒の学力は、着実に向上しつつある。しかし、思考力を問う問題および算数・数学科において、苦手意識を持つ児童生徒が少なからず見られ、これらが成果として十分につながっているとは言えない。個々の実態をより詳しく把握した上で、指導のさらなる改善を図ることが重要である。
改善策	授業改善プロジェクト、訪問指導及び研修支援などを通して、児童生徒一人ひとりの課題が改善できるように助言指導を進める。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 4

主要事業名	小中学校における英語教育の充実（小学校英語科導入を見据えた指導法の展開）	担当	部 名	教育委員会
			課 名	教育指導課

### 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	1	学び高め合い、生きる力を育む学校教育の推進
体系項目	(4)	確かな学力の保証
個別施策	⑤	小中学校での英語教育の充実

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語に慣れ親しむことにより、言語や文化に対する興味・関心を高め、国際理解の基礎を培う。またコミュニケーション能力を育成、将来を見据え国際社会に対応できる人材育成を目指す。</li> <li>・中3における英検3級程度の英語力を有する生徒の割合を、H32までに50%以上とする。</li> </ul>
---------------	---

### 3 実績

	<p>下妻市教育委員会と下妻市立小学校を訪問した。教育委員会にALT1名、英語専科教員1名、英語のみ担当の主査1名を配置している。さらに学級担任を対象に毎月1回の悉皆研修を行っている。下妻市の取り組みを参考に、積極的に各校を訪問し、ALTと学級担任への随時指導・助言を行った。また、H30小学校外国語は新学習指導要領の移行期間となり、国が作成した新教材を使用することとなる。本市としては、授業時数の先行実施（年70時間）、これまでの学びを生かしたプラスαの指導内容・オリンピック関連の内容も加え、指導の充実を図っていく。</p>
--	--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>H30から小学校において学級担任がT1となり授業を進めていく。英語力や指導に不安を抱えている学級担任が多いため、英語力・指導力の向上に向けた研修の充実及び人材の育成・確保が課題となる。</p> <p>大学入試制度・全国学力・学習状況調査においても、今後は4技能の英語力をみるテストとなる。4技能をそれぞれ測定することができる外部試験を実施していないため、客観的な力を捉えることができていない。</p>
改善策	<p>年6回推進校による授業公開、年5回の英語訪問指導、その他4回以上の研修会等を実施し、教員の英語力・指導力の向上を図っていく。位置付けられた訪問以外に、随時の学校訪問をし、指導主事による直接の指導・助言により、英語で授業を進める指導力を付けていく。教育委員会に指導主事的ALTを配置し、第二言語習得論に基づいた中学校コミュニケーション英語のカリキュラムをH30末までに作成し、4技能を総合的に育成していく。さらに、中学校においては、4技能を測定できる外部試験を実施する。</p>

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 5

主要事業名	教育環境の整備	担当	部名	教育委員会
			課名	教育総務課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(1)	安心・安全・快適に学べる教育環境の整備
個別施策	② ⑤	小中学校大規模改修の計画的な実施 学校体育で利用可能な温水プールの新設

### 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムリーな校舎の改修により長寿命化と教育環境の充実を目指す。</li> <li>・普通教室のエアコン整備、学校プールとしての屋内温水プールの整備により、児童生徒が安心・快適に学べる環境を整える。</li> </ul>
---------------	---

### 3 実績

<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設面では、どの施設も建設から30年から40年経過しているため、大規模改造工事（老朽箇所の船体的な改修）の計画的な実施が必要。平成29年度については、鉢形小学校及び鹿野中学校校舎並びに鹿島小学校エアコン整備工事の大規模改造工事を完了した。</li> <li>・大野区域屋内温水プールは平成31年1月の完成に向け順調に工事を行っている。</li> </ul>
--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改造事業を計画的に進めていくには、国庫補助金の確保が大変重要であるが、採択については不確定である。</li> <li>・屋内温水プール整備工事の敷地が狭いため、打合せを密に行い、工程どおりの工事を行う必要がある。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残り14校の大規模改造事業は、国庫補助金が採択されない場合にも毎年計画的に実施していくべきである。</li> <li>・大野区域屋内温水プール整備工事に関する書類の確認を迅速に行うと共に、現場の状況を確認しながら、工程の進行管理を実施する。</li> </ul>

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 6

主要事業名	特別支援教育事業の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	教育指導課

### 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(2)	一人ひとりの特性に目をむけた特別支援教育の充実
個別施策	①	特別支援教育の推進のための指導・支援体制の充実

### 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	未就学児の発達や教育について、保護者のさまざまな相談に応じ、支援者（教員や専門機関等）と共により良い就学ができるよう支援を行う。
---------------	--

### 3 実績

<p>文部科学省で必要に応じて教育支援計画を作成するように示されている中、本市は支援学級在籍・通級指導教室入級の児童生徒の作成率は100%を達成している。</p>
---

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	特別支援教育コーディネーターの定年や異動に伴い、次世代の特別支援教育コーディネーターへの知識・経験の伝達が喫緊の課題である。
改善策	新任特別支援教育コーディネーターの育成のため、特別支援教育コーディネーター研修会で学識経験者を講師として招き、研修する場を設ける。小中高の教諭による実践発表をする場を設定し、縦（異校種間）のつながり、横（同校種間）のつながりを大切にした研修会となるようにする。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 7

主要事業名	小中一貫教育の導入の推進	担	部 名	教育委員会
		当	課 名	鹿嶋っ子育成課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(3)	地域の実情に配慮した特色ある学校づくりの推進
個別施策	②	小中一貫教育の推進

### 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	小学校と中学校の9年間連続した学びの中で「確かな学力」と「豊かな人間性」の育みが期待できる小中一貫教育の全市的な推進を図る。進めるにあたっては、地域の実情にあった小中一貫教育の導入を図る。
---------------	--

### 3 実績

<p>事務局と学校側の情報の共有が図られたことで、高松小中一貫校がスムーズに開校できた。また、地域の方々とのつながりもおおむね順調にできた。</p>
--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	高松小中一貫校がスタートしてからの課題も出てくると考えられる。その課題の解消とともに、次のステップ（小中一貫教育の学校の選定等）も必要となる。
改善策	上記の課題解決のため、継続的に検討していくとともに、高松小中一貫教育の成果を検証し、地域にあった小中一貫教育の導入を図っていく。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 8

主要事業名	通学区再編成の検討	担	部 名	教育委員会
		当	課 名	鹿嶋っ子育成課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(3)	地域の実情に配慮した特色ある学校づくりの推進
個別施策	③	通学区検討委員会による通学区の見直し

### 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	上記の課題等の解決のため「鹿嶋市小中学校通学区再編成検討委員会」において、学校の規模及び配置の適正化並びに通学区の見直しを検討した再編成（案）を、市民へ公表し、寄せられた意見等をまとめ、平成32年度には、現状に合った新たな通学区を決定する。
---------------	--

### 3 実績

<p>現状の課題及び保護者や地域の意見を考慮した方向性に基づいた通学区再編成（案）を策定できた。</p>
--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	策定した再編成（案）を市民へ公表し、寄せられた意見等の収集を行い、できるだけ早く最終案を取りまとめ、新たな通学区でスタートしていきたい。
改善策	平成30年度内に市民公表後の意見等を踏まえて最終案の取りまとめを行い、平成31年度に行われる入学説明会時には新たな通学区で案内し、平成32年度入学時は現状に合った新たな通学区でスタートしていくスケジュールを進めていく。



## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 9

主要事業名	家庭・学校・地域の連携	担当	部 名	教育委員会
			課 名	社会教育課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(3)	地域の実情に配慮した特色ある学校づくりの推進
個別施策	⑥	学校活動における社会人ボランティアの活用

### 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習社会の実現(自らの経験、知識や学習の成果を生かす場の広がりなど)</li> <li>・地域の教育力の向上</li> <li>・子どもたちの多様な体験・経験の機会の増加、コミュニケーション能力の向上など</li> <li>・教職員の負担軽減や児童生徒一人ひとりへのきめ細やかな指導の充実</li> </ul>
---------------	---

### 3 実績

	<p>学校と地域が連携・協働する体制が構築され、制度の周知も図られてきている。学校支援ボランティアの登録者・延べ活用実績も増加し、円滑に学校支援が図られるようになってきた。また、学校からもボランティアの活用により、技能強化の実技指導や体験的な学習の充実、校内環境の美化につながったという意見も多く聞かれた。</p>
--	---

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	ボランティア登録者の活用がまだまだ不十分なので、学校が必要とする活動ができるよう学校と学校支援コーディネーターの連携を深めていく必要がある。また、ボランティア登録者が増加し、学校の活用実績も増えているため、薄謝として渡しているギフト券を学校要望数用意できるように予算の増額の対応が必要になっている。
改善策	学校支援ボランティア事業の更なる充実を図るために、「地域学校協働活動研修会」を実施し、担当となる学校職員や地域のコーディネーターの資質向上を図る。そして、連携・協働が進むように学校や公民館を定期的に訪問（学期に1回）する。また、ボランティア活動の充実に伴い、活動への薄謝についても対応できるよう予算要求していく。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 10

主要事業名	学校図書館の整備	担当	部 名	教育委員会
			課 名	鹿嶋っ子育て課

### 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(5)	読書活動の推進
個別施策	①	学校図書館と中央図書館の連携による読書活動の推進

### 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	市内全小中学校で学校図書館を開館することを目標とし、学校図書館の充実により、児童生徒の自主的な学習活動を支援するとともに、積極的な読書活動を充実させることにより、情報収集及び活用する能力を高め、豊かな感性や表現力を身につけることにつなげる。
---------------	--

### 3 実績

	<p>全小中学校の学校図書館整備及び司書（兼務含む）の配置が平成24年度に完了し、平成28年度の鹿島中学校及び大野中学校の整備をもって、全小中学校図書館の整備が完了した。司書免許を持った職員を全小中学校図書館に配置しているのは、鹿行地区でも鹿嶋市のみである。</p>
--	---

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備されたハード面を活用した、更なる読書活動の充実や、授業における学校図書館の連携・活用。</li> <li>・司書及び司書教諭の更なる連携による、図書館運営の実施。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司書が不在でも、教職員及び児童生徒が学校図書館を開館・運営できる体制の構築。</li> <li>・小中学校が合同で取り組む、図書を活用した事業の実施。</li> </ul>

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 11

主要事業名	図書館活動の充実	担	部 名	教育委員会
		当	課 名	中央図書館

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(5)	読書活動の推進
個別施策	②	図書館基本計画等の推進

### 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	平成28年に策定した図書館基本計画に沿って運営し、10年計画につき年度ごとに計画を進めていく。地域の知の拠点として市民と共に成長を続ける図書館を目指す。
---------------	--

### 3 実績

図書館基本計画に沿って、電子図書館を開設し、ハイブリッド図書館の一步を踏み出した。また、限られた予算の中で、児童書を中心に選書し、少しずつですが書架に新鮮味をもたせている。
--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	資料費を増やすことが、図書館運営で最重要の課題と捉えている。
改善策	予算作成時に、図書館資料費が県内でも最低レベルであることを訴え、予算増に努める。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 12

主要事業名	幼保小中連携型教育相談活動の充実 （教育センターの活用）	担	部 名	教育委員会
		当	課 名	教育指導課

### 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(6)	教育センターの機能の充実
個別施策	①	幼児、児童・生徒、保護者、教職員の相談・支援活動の充実

### 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	市内の教職員の資質・指導力向上のほか、不登校児童生徒の社会的自立の実現に向けた支援、教育上の悩みや子育ての不安を持つ保護者の相談体制を充実させる。
---------------	---

### 3 実績

教育センター研修講座や教育相談の充実、さらには教育委員会・教育会主管の会議等での積極的な教育センター活用を図ったことにより、過去最高の延べ5,724人の利用実績となり、市の教育行政の拠点として機能した。
---

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	教育センター開設から2年が経過し、取り組みが認知されてきたこともあり、利用者数や相談件数も増えてきた。さらなる支援体制の充実を図るうえでは、教育センター職員の増員やスキルアップ、研修講座の充実も必要となってくる。
改善策	教育相談は年々増えているが、内容によっては本来、学校が主体的に解決しなければならない案件もある。教育センターが解決までのプロセスにどこまで介入するかバランスを取る必要がある。学校管理職と密に連携し、本来学校が持つべき「解決する力」を落とすことなく支援していく。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 13

主要事業名	不登校・長欠解消支援の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	教育指導課

### 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(6)	教育センターの機能の充実
個別施策	①	幼児、児童・生徒、保護者、教職員の相談・支援活動の充実 他

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿嶋市内小中学校の長欠（不登校を含む）児童生徒の減少（出現率：小学生1%以下・中学生5%以下）</li> <li>・不登校児童生徒の社会的自立の実現に向けた支援及び学校生活への復帰</li> </ul>
---------------	---

### 3 実績

	<p>新規の長欠（不登校を含む）児童生徒数が抑制できていることから、長欠・不登校の未然防止につながっている。しかし、不登校に陥った児童生徒へは効果的な指導法は講じられていない。</p>
--	--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な要因や背景から不登校に陥っているため、それぞれのケースを個々にアセスメントして、関係機関と連携していく必要がある。</li> <li>・昨年度に引き続き長欠（不登校を含む）である児童生徒の対応策を講じる必要がある。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿嶋市教育センター教育指導員5人（元小中学校長等の学識経験者）と適応指導教室相談員5人（心理学に関する資格や教員免許等を保有）の役割を明確化し、各小中学校へ伝達していく。</li> <li>・茨城県カウンセリングアドバイザー事業を活用して、「鹿嶋市不登校等対策連絡協議会」において、長欠（不登校を含む）である児童生徒についてのケース会議を実施する。</li> </ul>

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 14

主要事業名	家庭教育支援体制の構築（家庭教育力向上推進事業）	担当	部名	教育委員会
			課名	社会教育課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	3	子育てのための家庭教育への支援
体系項目	(1)	家庭教育に関する学習機会の充実
	(2)	家庭教育、子育てに関する相談機能の充
個別施策	②	親のための学習活動支援の充実
	②	保健センター、児童福祉部門と連携した

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	保護者に対し、家庭での子どもとの関わりなど家庭教育の重要性を啓発するとともに、子育てに関する悩みや不安について、保護者が一人で抱え込まず、相談し合う機会を提供する。
---------------	--

### 3 実績

	<p>子育て講演会や家庭教育を考える集いでは、家庭での子どもとの関わり方や子育てに関する悩みや不安について、社会情勢や子どもたちの実態を踏まえた特色ある講演会を開催することができた。保護者からも参考になったという意見が寄せられ、参加者も前年度を上回った。また、今年度からスタートした訪問型の家庭教育支援も年度途中で対象家庭が変更されたものの、訪問した家庭に喜んでもらえる事業になった。</p>
--	--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	講演会については、常に社会情勢に見合ったテーマを選定し、参加者に役立つものにする必要がある。訪問型家庭教育支援については、課題を抱える家庭を訪問して教育支援を行ったが、ケース会議で健康福祉部と支援が重複してしまったため、訪問対象家庭の選定に課題があった（途中訪問対象家庭を変更）。また、訪問型家庭教育支援についての周知が不十分であった。
改善策	講演会についてはアンケート結果を参考にしながら学校等と連携を図り、実施していく。訪問型家庭教育支援については、対象家庭を変更し、幼児教育から学校教育へと大きく環境が変化する子をもつ家庭を訪問して、保護者の不安や悩みに寄り添う支援や情報提供、さらには課題を抱える家庭の早期発見・早期支援を行っていく。訪問前には、広報誌やFM放送、市内幼児教育施設等へ資料の配布などを行い、市民に周知していく。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 15

主要事業名	公民館活動（まちづくりセンター）と運営体制の充実	担当	部 名	教育委員会
			課 名	中央公民館

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上
体系項目	(1)	社会教育の充実と多様で主体的な生涯学習活動の推進
個別施策	①	学習に取り組める場と学習機会の充実他

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	市民一人ひとりが積極的に地域づくり・まちづくり活動に参加することで、連帯感あふれる地域社会の形成を目指す。
---------------	---

### 3 実績

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題に寄り添い、解決のために必要な手法を学ぶ機会として、各種研修会・講座を開催することで、情報の共有を図り学習機会を提供することができた。本年度においては、地域活動に求められる新たな視点と社会教育をテーマに、「子どもの居場所」について検討した。また、現代的課題（地域課題）に向けた新たな取り組みとして、学習成果を実践に結びつけるための平成30年度予算を計上した。</li> <li>・各地区まちづくり事業においては、地域住民が主体的に公民館事業を実施し、コミュニティ形成・地域の連携を育む取り組みが行われた。</li> </ul>
--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	東京2020大会サッカー競技会場となっている鹿嶋市は、オリンピックの成功に向けて様々な取り組みとその成果を生かして、どのようなまち、地域をめざしていくのか、オリンピックレガシーとして何を遺せるかが問われている。これまでも公民館活動は地域住民とともに住みよいまちをめざして、地域福祉やスポーツ、青少年育成、文化・芸術、環境保全、安全安心など、様々な分野で地域づくり・まちづくりに取り組んできたが、協働のまちづくりの理念の浸透や様々な行政部局が各分野で対策を講じることにより、公民館が担ってきた社会教育振興の分野に多様な主体（地区社会福祉協議会や自警団、NPOなど）が参画している。それぞれの活動を縦割りではなく横割りにも網目を入れ、お互いの顔と活動がつながる環境づくりについて、オリンピックを契機に地域の方々と考えていきたい。公民館を中心とした地域におけるまちづくり市民活動のネットワーク形成をめざして「地域コミュニティプラン」を作成し、オリンピックレガシーとして鹿嶋市の市民活動のステップアップを図っていく必要がある。
改善策	まちづくり研修会、まちづくり講座において、オリンピック鹿嶋市開催の成功にむけた市民参画プログラム（機運醸成・おもてなし事業等）の検討経過と今後の方向性、平成31年度の活動提案などを協議・確認する内容を検討していく。市民参画プログラムを検討する際の視点としては、オリンピック・パラリンピックの開催意義や成功させるための参画プログラムに掲げられた8つのテーマ（スポーツ・健康、まちづくり、環境・持続可能性、文化、教育、経済・テクノロジー、復興、オールジャパン世界への発信）を参考にし、地域の魅力や課題についても検討することに並行して主事研修会等において、テーマに対する各地区の現状、関連するまちづくり行政計画等を確認しながら、今後の公民館や市民活動のあり方、方向性について提起をしていく活動を展開していく。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 16

主要事業名	放課後子ども総合プランの推進と充実	担当	部 名	教育委員会
			課 名	社会教育課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上
体系項目	(2)	学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成
個別施策	②	子どもたちの居場所づくり事業の実施

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	全ての児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験活動ができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備を進める。
---------------	---

### 3 実績

<p>「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブ事業と放課後子ども教室事業を実施した。放課後児童クラブについては、保護者ニーズに対応し、前年度から1クラブ増設しての実施となった。放課後子ども教室については、新たに鹿島小学校で実施に取り組んだ。児童が放課後等を安全・安心に過ごすことができる居場所づくり、児童の多様な体験活動及び地域住民との関わり合いなど、総合的な放課後対策を実施することができた。</p>
---

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	放課後児童クラブにおいて、年々増加する利用希望者を受け入れていくためにはクラブ増設が必要となるが、場所の確保が困難な状況である。現状で放課後子ども教室や放課後児童クラブで使用している部屋も、学級編成によっては教室不足により調整が必要となっている。また、放課後児童クラブの基準（面積等）も平成32年4月1日からは厳格運用となるため、それに向けた対応も必要となっている。
改善策	放課後子ども教室及び放課後児童クラブの場所確保について、余裕教室や特別教室だけでは受け入れきれない場合には、一般の普通教室の活用を視野に入れて対応していく。



## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 17

主要事業名	青少年の体験・健全育成活動の推進	担 当	部 名	教育委員会
			課 名	社会教育課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上
体系項目	(4)	市民ぐるみで行う青少年健全育成の推進
個別施策	②	フロンティア・アドベンチャーなどの青少年の交流と活動の促進 他

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な自然の中での体験活動を通して、生きる力(自立性・協調性・課題発見能力・課題解決能力など)を身につけ、成長することを目的とする。</li> <li>・青少年をとりまく社会環境を健全化し、青少年の健全育成や非行防止などを目的とする。</li> <li>・青少年がインターネットを適切に活用できるように、家庭、地域学校などにおける情報モラル教育の推進を目的とする。</li> </ul>
---------------	---

### 3 実績

<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の調査では「体験活動が多い子は、自己肯定感（※自身のあり方を評価できる自尊感情や自らの価値や存在を肯定できる自己存在感など指す）が高い」という調査結果出ているが、青少年の自然体験は減少傾向にある。フロンティアでの体験で、感動や喜び、寂しさ、忍耐などの感情を持つことで、豊かな人間性と価値観が形成され、自己肯定感の向上に有効である。</li> <li>・インターネット利用は低年齢化しており、青少年に対して有害な情報も安易に手に入る現状となっている。メディア教育を充実することで、適切なインターネット利用を促進することができる。</li> </ul>
---

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用教職員は研修などが多く、フロンティアに参加する日程確保が難しい。</li> <li>・メディア教育に関する参加者アンケートでは、インターネットの利用方法についてもっと話を聞きたいという要望がある。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員については、概ね2年目～5年目の教職員を中心に参加していただけるように、学校をお願いをする。</li> <li>・メディア教育講習会は、入学前説明会や思春期子育て講演会と同日に行っているため、時間配分を見直して講習会の時間確保を行う。</li> </ul>

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 18

主要事業名	芸術文化に親しむ機会の提供	担 当	部 名	教育委員会
			課 名	中央公民館

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	5	伝統文化・芸術の振興
体系項目	(1)	豊かな感性を育む芸術文化に親しむ機会の提供
個別施策	②	学校、施設等の様々な場所で芸術に親しむ機会の提供

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	市民の芸術・文化活動に関する関心を高め、意欲的な創作活動を促し、地域文化を育む。
---------------	--

### 3 実績

<p>市美術展覧会や芸術祭の開催は、市内芸術家の創作活動への意欲を増進させる機会となっている。また、市民に気軽に芸術文化に親しむ機会を創出することができている。継続的な課題（芸術文化活動を行う新たな人材）について、市内高等学校を訪問し、市文化事業に関する情報提供（周知・広報活動）を行い、新たな人材の発掘・育成へとつながる取り組みをはじめた。</p>
---

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	文化協会構成員の高齢化が進んでいる。事業の継続にあたり、新しい人材の掘り起こしや後継者の育成など、市の芸術文化の活性化を図る取り組みを文化協会と連携して進めていく必要がある。
改善策	東京2020大会を契機に、地域にどのようなレガシーを残すことができるのか。また、大会開催に向けた機運醸成を図っていくうえで、市の芸術文化活動をどのように生かし国内外に発信しアピールしていくのか。東京2020大会を活用した市芸術文化活動の活性化策を文化協会と連携して、取り組んでいく必要がある。本年度は、市の文化事業について市内高等学校へ広報活動を行った。次年度以降は、引き続き若い世代への広報活動を継続していくとともに、オリンピックレガシー創出に向けたロードマップを文化協会とともに示していくことが必要であるため、平成30年度中に文化協会と調整していく。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 19

主要事業名	国指定史跡「 <small>カシマジンゴウ ケイダイツケタリ グウケアト カムカイイ</small> 鹿島神宮境内附郡家跡」（ <small>ヒキ</small> 神野向遺跡）の保存・活用	担当	部 名	教育委員会
			課 名	社会教育課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	5	伝統文化・芸術の振興
体系項目	(2)	歴史、文化遺産（有形・無形）の保存・保全と継承
個別施策	①	国・市指定の史跡の整備 他

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	史跡整備事業は、史跡公園として郷土学習や体験学習の場や、市内外の人たちが鹿嶋市の歴史に触れる場として保存整備・活用を行っていく。また、遺跡内容の把握のため確認調査、発掘調査を行っていく。 また、国史跡の保存・活用事業は、出土品やこれまでの成果を活用し、直に体験できる活動などを通して歴史に触れ、学べる機会を設定し、国史跡の理解を深めてもらう。
---------------	--

### 3 実績

史跡整備は、検討委員会や文化庁、県と協議しながら、保存活用計画を平成30年度に策定することになり、平成29年度は活用計画の内容の検討を進めた。収集資料や出土品の保存・活用事業は、出前講座や企画展示・特別展示などをどきどきセンターやミニ博物館ココシカで行い、国史跡が学べる機会を設けた。
--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	史跡整備は、公有化の問題や基本計画、実施設計に係る費用、整備環境の問題などがある。収集資料や出土品の保存・活用事業は、見学者を増やすための活動の見直しを検討する必要がある。
改善策	保存活用計画を策定するにあたり、今後の基本計画、実施設計の基礎となる資料作りを行い、速やかに史跡整備が行えるようにする。また関係部署との連携も図れるように協議を進めていく。どきどきセンターやミニ博物館ココシカの運営は、学校との連携を図り、地域の子供達に周知することを検討する。どきどきセンターの土日開館については、企画展開催中の開館対応を継続し、周知を広めていく。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 20

主要事業名	スポーツ活動の推進，スポーツを通じた交流の推進	担当	部 名	教育委員会
			課 名	スポーツ推進課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
重点目標	6	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
体系項目	(1)	幅広い年代が楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進
個別施策	①	スポーツ事業の開催と体験する機会の提供

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	①スポーツコンベンション事業・健康づくりスポーツ教室等の開催 ②成人の週1回以上スポーツ実施率50%以上（目標年度平成33年度）
---------------	---

### 3 実績

シンボルスports大会をはじめ、スポーツイベントや教室等を開催することで、県外からも多くの参加をいただくなどスポーツ交流・活動の機会を提供することができた。また平成29年度は、観光部門や福祉部門と連携した事業を開催した。今後も他分野と連携してスポーツを核とした交流・地域活性化を図る。
---

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	2019年茨城国体や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運を活用したスポーツ事業の拡充を図るとともに、スポーツや健康づくりを核とした様々な分野が協力する体制づくりが必要である。
改善策	スポーツに親しむことによる体力の向上、ストレス発散・生活習慣病予防などの健康増進、その他に地域コミュニケーションの醸成や経済発展など、スポーツの持つ社会的意義と可能性を含めたスポーツ政策が検討されるなか、鹿嶋市においても地域特性や資源を生かしながら、アントラーズホームタウンDMO（鹿行5市）をはじめとする地元企業や市民、地域、スポーツ団体、各分野の行政部署と連携することでスポーツによる本市の活性化を図る。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 21-①

主要事業名	2019年茨城国体の開催準備（施設整備事業）	担当	部 名	教育委員会
			課 名	教育総務課

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	6	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
体系項目	(3)	スポーツ環境の整備・充実
個別施策	①	広域的な大会に対応できる施設整備

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	日本サッカー協会規定に基づく、サッカーグラウンド及び付帯施設（フェンス、観覧席、照明設備、トイレ等）を整備する。 ①ト伝の郷多目的球技場（人工芝）②高松緑地多目的球技場（人工芝）③北海浜多目的球技場（天然芝）
---------------	---

### 3 実績

<p>厳しい財政の中で、国、県、サッカーくじ助成等の補助金や交付金を活用し、施設整備を行っている。限られた予算を最大限に有効活用し、国体施設を整備することはもちろんのこと、国民体育大会が終わった後も多くの市民が利用できるように配慮して施設整備を行っている。</p>
--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	平成31年の国民体育大会までに老朽化した既存施設（管理棟、トイレ等）の補修や改修を行う必要がある。
改善策	関係課及び施設管理者と調整を行い、ト伝の郷多目的球技場の管理棟の外壁補修、内部のシャワー及びトイレの改修、球技場周辺の屋外トイレ（和便器5箇所）の洋便器への改修、障がい者トイレの改修、高松緑地体育館の解体撤去工事及び附属する公園施設の撤去及び改修を行っていく。

## 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 21-②

主要事業名	2019年茨城国体の開催準備（大会運営準備事業）	担当	部 名	教育委員会
			課 名	スポーツ推進課 （国体推進室）

### 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	6	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
体系項目	(1)	幅広い年代が楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進
個別施策	①	スポーツ事業の開催と体験する機会の提供

### 2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	第74回国民体育大会におけるサッカー競技の開催の成功と、国体開催を通じたスポーツに対する市民の機運醸成を図ることを目的とする。
---------------	---

### 3 実績

<p>3つの専門委員会を設置し、必要に応じて協議を行いながら、茨城国体及び国体のリハーサル大会開催に向けて必要な計画等の策定を行った。また、茨城国体が市内の児童・生徒の成長に寄与し、記憶に残る大会となるよう市内小中学校と連携プロジェクトチームを設立し、国体を活用した事業について協議を行っている。</p>
--

### 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茨城国体開催に向けた仮施設などの精査及び県運営交付金の確保。</li> <li>・リハーサル大会及び茨城国体開催でのおもてなしなどの実施に向けた調整。</li> </ul>
改善策	専門委員会において関係団体等と調整していくとともに中学校との連携プロジェクトチームにおいても協議をしていく。また運営交付金については、県に対し引き続き要望していく。

# 平成29年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 22

主要事業名	奨学金制度の充実	担当課名	教育委員会
		担当者名	教育総務課

## 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	7	教育における今日的な課題への対応
体系項目	(1)	教育と福祉が連携した子どもたちへの支援
個別施策	②	学びを支える経済的支援の充実

## 2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	優良な生徒・学生でありながら、経済的な理由によって修学が困難な者に学資を貸与し、有為な人材の育成を図る。また、一定数の新規奨学生を決定することにより、本市出身者の教育の機会を継続的に確保し、奨学資金の有効活用を図る。
---------------	--

## 3 実績

<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度に実施した平成29年度新規奨学生を含めた合計87人に奨学金の貸与を行った。また、平成30年度新規奨学生の募集を前年度同様1カ月早め実施した。</li> <li>奨学金返還滞納対策については、口座引落とし不能者に対する早期対応と長期滞納者への夜間個別訪問等の実施により滞納者数及び滞納額が減少した。</li> </ul>
---

## 4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度新規奨学生については、一定の出願があったが、願書交付者に対する出願者数は前年度より20%減少した。今後も継続して奨学金貸与をするため、制度の周知等の工夫が必要である。</li> <li>奨学金の滞納については、就職難や非正規雇用などの理由により本人が安定した収入が得られず返還が滞っているケースが増えている。複数年度に渡る滞納を減らす対策が課題である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の国による奨学金制度（貸与型・給付型）を見定めながら、高塚奨学金制度の見直しも視野に入れて検討していく。</li> <li>奨学金の滞納対策については、督促通知に加え、電話や夜間訪問等による個別対応を継続的に行う。また、複数年度に渡る滞納者に対しては、保証人への働きかけを加え粘り強く対応していく。</li> </ul>